

## 「JENESYS2019」香港・澳門高校生訪日団 参加者の感想（抜粋）

### ◆香港団

○一番印象深かったのは愛媛での弓道体験であった。私はアーチェリー部に所属しており、弓道に対してもある程度の認識とイメージを持っていた。ところが実際に体験してみると私が思っていたものとかかなり異なる点がたくさんあった。例えば弓道で使用する弓矢は全て右手に持ち引く。私が普段慣れているやり方とは異なるが、何回か練習した後に基本動作を把握できた。また日本弓道は引き方も異なり、器材の区別や距離も異なる。現代の弓術は試合を目的とすることが多いが、弓道は依然として独特の美しさと優美さがある。今回の体験を通して心をオープンにして学ぼうという気持ちで新しいものを学ぶことができた。それは異なる国の文化だ。一つの国の文化は数千年にわたる歴史が生み出したものでそれぞれに特色があり、広く豊かである。異なる文化を賞美することで自分の人生を更にすばらしくワクワクしたモノで満ち溢れるようにしたいものだ。

日中両国の同じところは、人のもてなし方に似ているところがあると思う。日本で交流した際、私たちは格別なもてなしを受け、すばらしい待遇を享受できた。中国においては客人をもてなす際はまるで家に帰ったような気持ちになってもらうことをよしとする。両国とも積極的に自分の最もいい面を表すことで客人に楽しんでもらう。異なる部分は日本の伝統文化は日本人の生活の中で大きな部分を占めていることではないかと思う。例えば部活動や風習などだ。中国では都市部の生活は比較的現代的で、伝統の継承という点は普段の生活の中にはあまり現れない。これらの違いを通して自国の歴史が文化の変遷にどう影響したか、時の流れの中で文化や風習が伝承されていく形式を顧みる機会となった。

○学校訪問を通して日本の高校生の温かさを感じた。私たちが学校へ着くやいなや拍手で出迎えてくれ、また学校を離れる際はずっと手を振ってくれた。今回日本の高校生もたくさんのアクティビティやパフォーマンスを準備してくれていた。多くの日本の伝統的な文化、茶道や剣道、カルタなどを体験し、どれも大変面白かった。ただ交流にあたっては正直なところ言葉の壁がかなりあったが、英語やボディランゲージを駆使してコミュニケーションを図った。今回の2回の学校交流を通して、言葉を学ぶのはいい成績をとるためではなく、人とコミュニケーションをとることが一番大切で、それには相手に理解してもらえらる文を用い、難しい単語を使うことではないということ学んだ。他にも学んだことは、将来仕事をする際、人に対しては真摯に向き合おうということだ。そういう気持ちはきっと伝わると思った。異なる点は日本の部活動は生徒が主体で先生は見守っているところで、香港とは真逆だった。しかも日本の高校生は先生の監視がなくても真面目に取り組んでいた。

松山城の歴史はとても深く、こういった城塞形式の建築物を見学するのは初めてだが、見学を通して日本の伝統文化を保存する精神が香港とは異なる点を深く感じた。日本では建築物が破壊、焼失しても再建する道を選び、その本来の姿をとどめようとする。例えば石垣、日本では努力して古来の建築方法を研究し、再建する。香港では経済発展が優先され、身近な古いものは軽視されている。仮に残されても商業的なスタンスに立って観光客を呼び込むことに使われる。

○2回の学校交流で多くのことを得た。松山東高校も桜塚高校も豊富なプログラムを準備してくれ日本の学校生活を体験することができた。日本の高校の部活動は種類が多く、しかも時間もかなり

さかれている。香港では学業が重視されるので部活動に充てる時間はそれほど多くなく、補習も多い。今回の訪問を通して学業と部活動のバランスをいかにとるか自分自身を振り返るきっかけとなった。香港に戻ったらきちんと時間管理を行い、部活動にも積極的に参加しようと思う。また学校のイベント、例えば運動会、日本では生徒が主体となっているが香港では先生の主導のもと行われ、生徒は指示に従うだけだ。やはり生徒がより能動的に動ける能力を強化するべきだと思うし、自分自身もさらに主体的に動けるようになりたいと思う。

大阪府の吹田市資源リサイクルセンターを見学した際、日本の廃棄物の処理は非常に緻密に真摯に取り組まれていることを知った。日本では12種類に分けリサイクルが行われている。香港では多くても5種類、3種類が基本だ。日本人は資源のリサイクルにおいて非常によく取り組んでいる。しかも小さなころからこういった意識を教育し、小学4年生になるとリサイクルセンターに見学に来て分類方法を学ぶ。日本人の環境意識の高さを垣間見た。これは理想だが、香港社会にもそっくり取り入れたらどうかと思う。もちろん実現性は高くないだろうし、効果も薄いだろう。まずは廃棄物リサイクルにおける香港人の環境意識を高め、さらに一歩よりよい政策を実行するのがいいのではないかと思う。そして自分自身環境保全やゴミの減量につながる努力をしているかどうか振り返ってみる必要があると思った。普段の生活の中でゴミのリサイクル或いは減量化の習慣を身につけ家族とシェアし、一緒に環境保全に努めたいと思う。

○今回の JENESYS の日本訪問で私自身多くのものを得ることができた。その中でも私の印象が最も深かったものは日本人の「匠の精神」だ。

日本人の「匠の精神」は日本人にとってはあたりまえの、愛すべき、自分の仕事においても心を注いでいるものと言えるだろう。日本訪問2日目に「メイドインジャパン」の講演を聞いた。その中で私は日本人の「とことんよいものを追求する」精神を見た。最後の質疑応答で香港の高校生の多くは「費用対効果」問題をあげたが、北條先生の講演の中でより多く感じたことは、日本人は自分が正しいと思うことをあたりまえのようにとことんやりぬくということだ。例えば講演の冒頭で先生が私たちにプレゼントしてくれた28の角がある消しゴムから、また見学した吹田市資源リサイクルセンターの処理過程においても日本人の完全主義、何事においてもとことんよいものを追求する精神がみてとれる。そしてそれをさらに改善しよりよくして、より使いやすくしようとする。

この他にも「匠の精神」は学校の中でも見られた。日本の学校には多くの部活動があり、生徒たちは積極的に参加している。松山東高校との交流の中でもそこそこに垣間見ることができた。書道部の生徒たちが大変熱心に字を書く姿、交流会でも日本の高校生はとても温かった。華道部の生徒たちも花を生けるにあたりどうしたらより美しく、調和がとれるのかとことん追求していた。こういったことから日本の高校生が部活動を頑張っている姿や、かなりの時間を捧げ大切にしていることが分かった。

日本人の「匠の精神」は随所に見られ、私も何か一つのことを当たり前前に心を込めて行い、好きになってこそよい成果が得られるのだと知ることができた。

○学校訪問の中で日本の高校生と交流し、互いに普段の生活や勉強における同じ点、異なる点を知ることができた。また授業や部活動への参加体験を通して日本の高校生の授業科目への理解を深め、日本文化に触れることができた。また日本の高校生の温かいホスピタリティを通して本音の部分に触れられて、私の視野と日本の若者に対する全面的な理解が広がった。ホームステイでお世話にな

ったKさんご家族は本当に親切に面倒を見て下れ、大変感動した。ともに過ごした時間はわずか一晚であっても、ホストファミリーが私たちのためにいろいろ準備してくれたアクティビティ（温泉体験、山に登って夕日を見たこと）や互いの交流を通して、いつの間にか深い友情が芽生え、お別れの際は互いに抱き合って名残を惜しんだ。今回のホームステイで日本の家庭や生活スタイルに対する新たな発見があった。

またパナソニックミュージアムを見学した際、創業者松下幸之助の生涯と理念を通して日本の匠の精神、すなわちものづくりにおける情熱、消費者や社会及び従業員に対する責任を認識した。

今回の体験は今後の学習においても私の人生においても大変貴重な経験となった。

○滞在中二カ所の学校訪問、ホームステイまた国立科学博物館を見学した。学校交流では日本の温かさや我慢強さを感じた。日本の高校生はわずかな中国語と英語しか話せなかったが、みんな一生懸命辞書を引いて異なる単語や文を用い私とコミュニケーションを図ろうと努力していた。交流した際、日本の高校生はみな我慢強く、熱心に私の香港や香港の学校紹介に耳を傾けてくれた。授業中、日本の高校生は積極的に質問に答え、教室の雰囲気もよく、香港の詰め込み式の授業スタイルとはかなり異なっていた。数学の授業では、日本のスタイルは先生と生徒の相互交流に重点を置き、ゲームや互いのやりとりを通して生徒がより理解を深められるよう工夫されていた。香港の教え方より日本のスタイルの方が生徒はより勉強に力をいれ、好きになるだろうと思う。

ホームステイでは伝統楽器（八雲琴）体験や伝統的な料理を作った。これらの体験を通して日本では文化の継承がしっかりと行われていることを知った。ホストファミリーのNさんの奥さんは八雲琴の伝統文化を伝えるために村に子供用の講座を開設し子供たちに八雲琴を教えている。また定期的に博物館で伝統音楽を演奏している。香港ではこういった資源を文化体育方面にあまり力を入れていない。中国の伝統音楽も粵劇などの伝統文化も継承できない危機に瀕している。今自主的にこういった中国の伝統音楽を学ぼうとする人がいないのが現状だ。

最後に国立科学博物館の見学で日本の科学技術と歴史の変遷を知ることができた。ますます多くの日本の科学者たちが国際舞台で活躍し、日本の科学者がノーベル賞を受賞したというニュースが珍しくなくなっている。日本の匠の精神が日本の科学技術を更に発展させ、利益よりもよりよいものを作り出そうとする精神が彼らにより多くのお金と時間を科学技術の研究に専念させている。中国と比較して日本では不良品は格段に少ない。こういったことも日本の匠の精神に帰来するものだと思う。彼らの完全主義が日本の科学技術をさらに発展させている。中国ではどちらかと言えば生産量を重視し、日本は製品の品質に重きを置いている。ここからも日中の異なる文化を見ることができる。

○学校交流では日本の学校文化を深く知ることができた。大阪府立刀根山高校を訪問した際、家庭科の授業は大変驚いた。香港の高校にはこういった教科はない。中学の時はあったが、こんなに真剣ではなかった。

日本の教育はどの学科も真面目に熱心に取り組まれていて、香港も参考にすべきだと思った。家庭科では調味料の特徴、調理技術などを学んでいたが、香港では家庭科はままごと遊びぐらいにしかとらえられていない。一般の学生に至っては何の役にも立たず、大人になっても調理技術もお粗末なままだ。体育の授業も真面目に取り組まれていた。多くの香港人は体育の授業は娯楽のようなものだととらえているが、日本の高校生は先生が見ていないところでも手を抜かず一生懸命に走っ

ている。本当に素晴らしいと思った。

また日本の各地での見学活動を通して日本の文化と歴史を深く知ることができた。例えば東大寺や橿原神宮では日本の宗教文化への理解が深まった。松山城の見学では日本の伝統建築の風格や日本史を感じることができた。

つまり日本文化は私の心に奥深く印象を残した。本当に貴重な経験となった。

#### ◆澳門団

○今回の交流活動の中では多くの印象が残っている。初めに歓迎会の際、香港側も日本側もパフォーマンスを行い、同年代の高校生と和気藹々と楽しく交流できた。その次はホームステイ。これは一番大きな印象が残った。ホストファミリーは細やかに面倒を見てくれ日本の家庭生活を体験できた。お別れの際は本当に離れがたくホストファミリーも泣いていた。

学習面では最初のセミナーで得た収穫が大きい。北條教授のお話は明確で分かりやすく、質疑応答の中で皆が出した疑問や教授の回答を通してさらにいろいろ学ぶことができた。工場や製造業の解説では多くの疑問が解けた。とくに「価値は現在だけにとどまっているのではない」という言葉が心に残った。多くのお金をつぎ込んでナノミクロンのギアを開発しても有効利用されていない、これでは金銭の無駄遣いではないかと大いに疑問を感じていたのだ。

また学校交流もいろいろ記憶に残っている。日本の高校生はみな温かくすぐ打ち解けることができた。また授業のスタイルも今後英語の授業でも私たちの参考になると思う。鬱々とした雰囲気の中ではない環境で学び、多くのアイドルのファンと知り合い、茶道や華道、日本式の浴衣を体験した。

今でもホームステイでMさんが私に和服を着せてくれた時の温かい感覚を覚えている。様々な交流の中で多くの先進的な科学技術を見た。日本人は礼儀正しく、すべての交流はよい環境の中で行われた。今回の訪問を通して日本の紡織技術の発展や日本の伝統文化を学び、基盤の厚い文化は私に日本の歴史を感じさせた。今回の日本訪問で日本人の温かさ、先見の明があり新しいものを生み出そうとする精神を学んだ。さらには彼らの文化遺産に対する重視と伝承を学ばなければならないと思う。

○私たちは今回の交流の中で三重県立宇治山田高校と名古屋市立名古屋商業高校を訪問した。初めに12月13日宇治山田高校での交流で数学の授業を体験した。学ぶのは高二の内容で始めは抵抗があった。ただ実際に体験したら思っていたほど難しくなかった。というのは日本の高校生が熱心に教えてくれたからだ。言葉は通じなかったが一生懸命私が解答を書くまでずっと解説してくれた。本当に意外だったが彼の我慢強さを学んだ。16日の名古屋商業高校での交流は、日本の高校生が私たちを校内案内してくれた際、いろいろと話すことができた。主には日本の高校生の学校生活についての話だった。私も商業科で学んでいるので、学校見学はいろいろな収穫があった。日本の学校の授業進度や澳門と異なる点への理解が深まった。2校の訪問で茶道をどちらでも体験し、日本文化の奥深さを知ることができた。

澳門と日本の学校生活が大きく異なる点は部活動だ。日本の学校の「部活」は様々な種類があり、文化系なら茶道、華道など。体育系ならバスケットボールやバレーボールなどがある。こういった活動は生徒の様々な興味を育て、味気ない学校生活をより楽しいものにできると思う。澳門は部活動の種類が少なく自分に合った部活を見つけるのは難しい。

○今回の交流で日本と中国の社会生活、学習、経済等の方面の異なる点を体感し、多くの貴重な経験と友情を得ることができた。北條先生のお話の中で日本の製造業の発展と有名な「匠の精神」への理解を深めることができた。匠が一つ一つのものづくりに心血を注ぎ、熱心に取り組む状況を知った。彼らの物事に対する旺盛な知識欲とたゆまない探求心は私たちにとっても大変参考になると思うし、新しいものを開発する際の情熱とスピードは私たちに欠けているものだ。日本の和服と中国のチャイナドレスはそれぞれ伝統的な衣服であり、象徴であるとともに各時代の科学技術の変遷と進化の証でもある。

また名古屋港防災センターでは震度7の地震を体験し、これまで味わったことのない恐怖を感じた。わずかな地震体験でさえこれほど恐ろしいのに実際地震に遭った人々はどれほど恐ろしく絶望を感じただろう。自分自身澳門のような災害のない場所に生まれたことを感謝した。

学校交流では授業の科目が多方面にわたっている点が参考にできると思う。例えば日本の高校では水泳や家庭科などがある。他にも茶道や華道などの部活動があり、日本の伝統文化や風習を継承するだけでなく、生徒に多方面での発展を促し学業成績だけに偏ることがなく学校生活がより楽しいものになっている。

葛西水再生センターの見学では環境保全は一日にしてはならずということを知った。過去にコレラが蔓延したことにより人々の地下水道の研究発展を促され現在につながっている。環境保全を掲げるなら一刻でも早く取りかかることが大切だと思った。